

令和5年度研究プロジェクト研究活動報告

研究種別	■自主研究 6	公益目的事業 16
主査名	秋山孝正 前関西大学教授	
研究テーマ	生活様式の変化を踏まえた持続可能な地方都市交通政策	
<p>研究の経過（4月～9月）：</p> <p>本研究では、前年度に着目した COVID-19 による生活様式変化を踏まえた持続可能な都市交通政策を考察する。特に地方都市に着目して、道路交通・公共交通の統合的交通サービスの形態を明確化することを目的とする。</p> <p>【地方都市における生活様式変化の実態分析】 既存資料から、生活様式変化に伴う都市交通パラダイムシフトの成果を整理した。都市交通需要の回復かつ生活様式の定着の過程が明らかとなった。また、地域別に生活様式変化の定着を踏まえた交通政策を提案するために、近畿圏で行われたパーソントリップ調査データを整理した。</p> <p>【地方都市圏におけるテレワークによる生活行動変更の評価】 テレワーク選択モデル、一部時間帯テレワークモデル、生活行動変更モデルおよび活動時間差モデルを適用に向けて再構成した。また、徳島都市圏を対象として、道路交通シミュレーションによる現況再現性を検証した。</p> <p>【生活様式変化からみた地方都市の公共交通政策】 自動車依存度の高い地方都市圏では、公共交通のサービス改善が求められている。そこで、宇都宮 LRT を対象として、公共交通への投資とサービス改善が、住民の意識や行動にどのような影響を与えるのかを分析するために、沿線アンケート調査の準備作業を行った。</p> <p>【生活様式変化による地方への移住定住支援のための地方交通施策】 山梨を中心に、地方の人口変化に関するデータ整理を行うとともに、地方移住を予測するため、家計の立地変更を考慮した空間的応用一般均衡 (SCGE) モデルの開発を行った。</p> <p>なお、これまで研究打ち合わせ会を3回、研究会を2回実施した。</p> <p>下期へ向けて（課題等）：</p> <p>【地方都市における生活様式変化の実態分析】 地方都市の実態調査を実施し、①各種生活様式の定着程度の把握、②期待される地域交通サービス、③統合型地方都市交通サービスの具体的形態について明らかにする。また、パーソントリップ調査データを用いて生活様式変化の定着を地域別に分析し、都市交通政策を提案する。</p> <p>【地方都市圏におけるテレワークによる生活行動変更の評価】 再構成したモデルを適用して、対象地域における出勤変更、付加的活動変更を推計し、自動車利用の抑制効果を計測する。また、ピーク時の混雑緩和および二酸化炭素排出量抑制の効果を計測し、持続可能性を評価する。</p> <p>【生活様式変化からみた地方都市の公共交通政策】 アンケート調査を実施し、結果を基に、公共交通への投資とサービス改善が、住民の意識や行動に与える影響を分析し、公共交通の役割を取りまとめる。</p> <p>【生活様式変化による地方への移住定住支援のための地方交通施策】 開発した SCGE モデルを用いて、移住定住支援のための地方交通を中心とした社会インフラに関する維持、整備の施策評価を行い、必要な地方の社会インフラ水準について明らかにする。</p>		